

地方自治が日本を創る! —共生の時代へ

山下倫一が実現してきたこと

議会から

① 老成人健診を誕生月健診へ

平成14年4月より実現

今まで老人健診は残暑の厳しい8~9月、成人健診は10月に行われていました。込み合う、結果が出るのが遅いなど高齢者の負担となる欠点がありました。その遅消のために誕生月健診の実施を提案。

② 水道給水システムの直結給水を拡大

平成14年4月より実施

3階以上の建物は受水槽の設置が義務付けられていました。安全でおいしい水を供給するために受水槽をなくし直結給水の拡大を提案。

③ 御殿山通りの改修

平成15年1月事業認可取得

三鷹駅南口から、むらさき橋までの御殿山通りが狭く歩行者が危険であると相談を受け、その整備の早期実現を要望。

④ 仙川を緑の公園に

平成11年~平成15年で450m整備完了予定

コンクリートで固められた仙川を親水公園化し、小金井市、三鷹市とともに整備することを提案。

⑤ 武蔵野三鷹地区保健衛生組合解散

平成15年3月解散

一定の役割を終えた組合の解散について問題提起。約5千万円の経費削減。

地域で

⑥ 西久保1丁目に交通規制指導員制度を創設

平成14年8月 朝日新聞掲載

かねてより通り抜け車両に悩んでいた地域で、住民の皆さんと相談し集団回収の補助金を使い、シルバー人材センターに指導員派遣をお願いし交通規制の実効を挙げる。

⑦ 三鷹通りの美化のために

平成14年4月 朝日新聞掲載

三鷹通りが整備されたことに伴い、フラワーポットを市で設置し、花の購入や日々の手入れを商店会の皆さんに行う仕組みを初めて作る。これは東京都の「道の里親制度」に認定された。

マンション建設は、周辺住民との調和を大切に

昨年7月から中町2丁目の袋路地に計画されたマンション建設に、周辺住民とともに反対をしてきました。防災上の安全性や周辺住民との調和からも皆さんの主張はもっともで、事業者との再三の話し合いにすべて出席してきましたが、事業者側からはっきりした回答がなされませんでした。土屋市長も議会等で繰り返し「この土地は誰が見てもマンション適地ではない」と計画に疑問を投げかけています。

しかし、事業者は、市の宅地開発指導要綱を無視し民間の建築主事により建築確認を取り、昭和46年に制定された要綱が、初めて事实上無視される事態になりました。規制緩和により民間でも建築確認が取れる現在の制度から、今後も同様な問題の発生が危惧され、街づくりにも大きな影響を及ぼします。私は、3月議会でこの問題を取り上げ、要綱のあり方とその対策について要望いたしました。その結果現在、住民と事業者が市長に斡旋を依頼しています。

武蔵野市政は民間企業の発想で、自治体経営の全国モデルを目指します。

効率的で満足度の高い市政運営を維持していくために、「市が行なつた事業は市民にどのくらい役に立つたのか」「満足を与えているのか」を常にチェックし、行政の改革を図っていく必要があります。そのため武蔵野市は、企業会計方式の「バランスシートを作りました」。現在は、次のステップである「行政評価システム」の意識・士気を取り戻すため、職員主義的な人事制度を導入し、活力ある自治体経営に取り組みます。平成15年度には、その前段階として職員の目標管理制度を試行します。私は、これらを総合的に組み合わせ、効率的で透明性の高い自治体経営を目指すと共に、子育て支援や、高齢者、街の安全など、これから時代へに欠かせない市民のための施策に力を尽くしてまいります。

山下倫一が目指すもの

1 山下倫一

2 地域からつくる生活安全部都市

3 街の安全対策／早期実現／ムバースネットワークの拡大／マンション老朽化対策支援

4 高齢者の健康づくり支援／在宅介護のさらなる充実／障害者・高齢者の小規模グループホーム設置

5 自治体経営の全国モデル／議員定数削減／行政評価システムの確立／職員の目標管理

6 マンション建設は、周辺住民との調和を大切に

7 信頼／責任／行動

山下倫一略歴
昭和23年 武蔵野市で生まれる
大野田小、五年、立川高校、早稲田大学商学部卒
平成3年議会初当選、現在三期目



山下倫一

市政レポート(臨時号)
武蔵野市西久保1-44-15 TEL:0422-54-3330
URL: http://www.jade.dti.ne.jp/tmkz007/
Yahooで「山下倫一」と入力して検索していただいて見られます